

eIこころ学習プログラムの開発

教員志望のすべての学生にこころの健康一次予防力を養成する
e-Learning Programの開発

概要

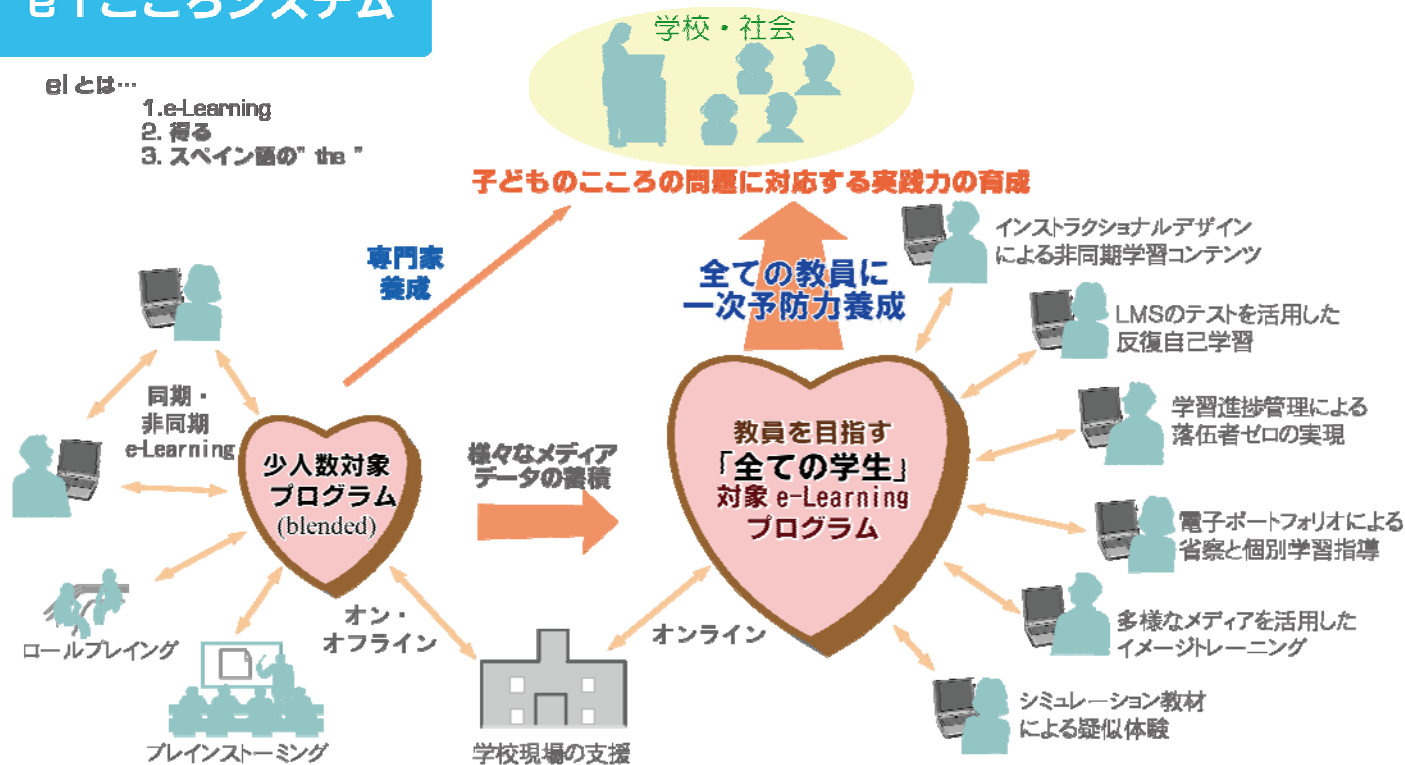
教員を目指すすべての学生に「心の健康に関する一次予防力」を修得させる、e-Learning Program

「一次予防力」、すなわち教育現場で子どもの異変に気づき、初期対応や専門家との連携を行う実践力が、教員にとって必要不可欠であることは論を待たない。

だが、現状では、そのための教育を大人数の教員志望の学生に施す必要性から大教室での一方的な講義にならざるを得ないケースが多く、表層的な知識伝授にとどまり実践的な力を身に付けさせるには至っていない。

本取組では、これら質・量両面の構造問題を解決するために、e-Learning の特性を活かし、メディアを活用したイメージトレーニング、シミュレーション、電子ポートフォリオによる省察などをインターネット上で大規模に展開することにより、「一次予防力」を着実に教員志望の全学生（教育学部とその他の学部の教職科目を履修している全学生）に身に付けさせようとする。

eIこころシステム



従来の問題点

体験型・演習型学習は大規模（大人数）授業の条件下で実施困難

「心の健康問題に対応する実践力」を修得するには、体験型・演習型学習が効果を発揮するが、少人数クラスでしか行えない。大人数に同様の教育を行う場合、教員数等の問題から一斉授業かつ一方的な講義にならざるを得ず、単に知識を与えるだけにとどまっていた。

自己学習への対応が不十分

個々の学習者の経験等の前提が異なるため、自己学習のレベルやペースを各学習者に合わせて提供することは極めて困難である。

学習に関する省察の不足

自己形成には、時系列で過去の自分の学習内容が保存され、これまでの学習過程を省察することが重要であるが、従来、十分にできていなかった。また、教育実習などで、実際の現場の問題に直面した際に、それまでに学習した内容を確認し、知識応用を図ることで知識が実践力になっていくが、そのためのサポートも不十分だった。

心の健康教育に関する専門家や現場の実践成果の活用体制の欠如

養護教諭養成課程や養護教諭特別科の取組、さらには現場教員の実践から得られた成果や知見を視聴覚的に蓄積する仕組みがないため、貴重な成果や知見を教育に活かし切れていなかった。

一斉講義における不十分な評価システム

一斉講義を行った場合は、「実践力」に関する評価は実質的に行えず、学習結果に関する評価と学生へのフィードバックや授業改善が困難であった。

本取組で目指すところ

e-Learningで体験型・演習型学習を大規模に展開

動画・音声によるイメージトレーニングやシミュレーションを活用した体験型・演習型の学習を、多くの学生に提供することが可能になる。学習管理システム（LMS）を活用し、「すべての学習者」の学習進捗状況を把握することで、落伍者の問題を解決する。

インストラクショナルデザイン（ID）に基づく自学学習コンテンツ

学習者個々のレベルやペースに合わせて学習できる動的なコンテンツをIDに基づき開発し、効率的・効果的な自学学習を実現する。

電子ポートフォリオによる省察・知識応用支援

学習履歴や学習成果を蓄積した電子ポートフォリオを活用することで、学習者の省察や知識応用を支援し、コンテンツ類の再閲覧等を可能にすることで、最適な解決策を提供する。

データベース化による知見の活用

各種取組や好事例、熟練教員による実践の姿などを動画・音声も活用したマルチメディアデータベースに蓄積し、コンテンツとして再利用することで、成果や知見を教育に活かす。

LMSを活用した評価とフィードバック

LMSのテストやグループディスカッション等の機能を活用し、学習成果の評価とフィードバックを十分に行う。